

# 令和元年度 第2回SSH科学講演会

## 彗星と小惑星からのサンプルリターンミッションによる太陽系初期進化プロセス

日時：令和2年1月17日（金） 14：05～15：35

場所：古川黎明中学校・高等学校 アリーナ（2F）

原始惑星系円盤でどのように最初の微小天体が形成されたのか？その微小天体をつくった塵は、どこでどのように作られ、どのように分布していたのか？

太陽系探査機が回収した惑星物質を対象に、分析実験および再現実験を行い、始源的な小天体が原始惑星系円盤でどのように形成進化したかを探った。



### 講師プロフィール

東北大学 大学院 教授：中村智樹（なかむら ともき） 博士（理学）

1966年福岡県北九州市生まれ。東京大学大学院理学系研究科 修士課程修了。

10歳のころ銀河や球状星団の神秘性に惹かれる。中学、高校では、野球やボクシングをする傍ら、夜は海岸で天体観測を行う。東京大理学部で地球外物質研究室に進学し、太陽系始原物質の物質科学的研究を始める。九州大の宇宙化学研究室に赴任し、米航空宇宙局・太陽系探査部門、独マックスプランク研究所・宇宙化学部門に留学、2001年より九州大助教授を務め、2012年から東北大教授。東北大学 理学部 地球惑星物質科学科に「初期太陽系進化学」研究室を主宰。

研究室ホームページ <http://www.esse.epms.es.tohoku.ac.jp/index.html>

太陽系の小惑星や彗星の研究から、太陽系の形成史を解明することを目指している。2008年にNASAのスターダスト探査機が回収した彗星塵の研究を行い、初期太陽系での大規模物質循環の証拠を発見、2010年に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」が回収した太陽系の小惑星・イトカワの微粒子の回収、初期分析を主導し、イトカワの形成史を解明した。小惑星探査機「はやぶさ2」が2020年に地球に持ち帰る小惑星リュウグウの初期分析も担当する。リュウグウには生命の起源となる水や有機物が含まれていると考えられており、サンプル分析結果が期待されている。



聴講の申込はこちらから受け付けます



C JAXA, NASA